

台風19号 各地での支援活動のご報告と募金のお願い

グリーンコープ共同体

15都県に及ぶ広範囲に甚大な被害をもたらした台風19号は、グリーンコープの産直生産者やお取引先工場にも甚大な被害をもたらしました。

10月14日～11月9日までに集まった支援募金は約2,600万円と、たくさんのご協力をいただいています。本当にありがとうございます。組合員の皆さまから寄せられた支援募金は被害を受けた生産者やお取引先、そして被災された皆さんへの支援に活用させていただきます。

グリーンコープでは引き続き、被害を受けた各地域で支援を行っています。

被害は甚大で、継続した支援が必要です。引き続き、災害支援募金へのご協力をお願いします。

<産直りんご生産者グループ「ハケタ会」・「信濃五岳会」>

「ハケタ会」では17名中10名が決壊した千曲川流域（赤沼地域：新幹線が冠水した地域です）に住んでおられます。家屋・りんご園・倉庫・農機具全てが浸水してしまいました。「信濃五岳会」は、決壊した地域と反対側の地域のため家屋や農機具への被害は免れましたが、千曲川沿いにあった生産者の園地（りんご・桃・ネクタリンなど）は全て浸水しました。



ハケタ会、会長の北澤万正さんと熊野代表理事

11月9日、10日にかけて、組合員を代表してグリーンコープ共同体代表理事の熊野千恵美さんが被災されたハケタ会の10名の生産者宅と信濃五岳会を訪問しました。

熊野代表理事からはグリーンコープの組合員が心配して、居ても立っても居られないので来ましたとのことのお言葉に生産者の皆さんから感謝の言葉を頂いています。

また、「ハケタ会のりんごを楽しみにしている組合員さんが大勢います。何年かかっても、またハケタ会のりんごが届く日を待っています。私たちは、今できる支援を精いっぱいやっていきます。」と力強く言葉をかけました。

これからも生産者の皆さんが様々に抱えている不安に寄り添い、支援をすすめていきます。



グリーンコープ向けに王林、シナノゴールドなどの出荷が始まりました。被災された北澤会長も大変な状況の中、山手の園地の王林を収穫し、なんとか出荷することができました。産直南島原の生産者も出荷応援に入りました。



長野市からの要請を受け、避難者用に歯ブラシセットをお届けしました。要請を受け、九州でセット作業をすぐに行い、お届けしました。引き続き、必要なものを必要な時にお届けして、支援を続けていきます。

台風19号災害支援募金

申込番号

9983

一口 200円

9984

一口 500円

特別申込欄に4ケタの申込番号と口数を記入してください。
【例】申込番号9983を数量欄に「2」申し込まれた場合400円のカンパとして受け付けさせていただきます。
※この申込番号は11月25日週まで受け付けます。

グリーンコープ災害支援の内容はインスタグラム「災害支援 by グリーンコープ」にて日々配信しております。

QRコードをスマートフォンのバーコードリーダー等のアプリを使って読み込んでください。



～引き続き支援を行っていきます～

東日本大震災の被災地でも台風19号、台風21号の被害が発生しています。早期復興が東日本大震災の被災地を応援することに繋がります。

<宮城県女川町 コミュニティスペースうみねこ>



(成ったまま腐敗したイチジク)

共生地域創造財団スタッフとグリーンコープ職員で女川のイチジク畑の片付けに行き、風雨で腐敗したイチジクの撤去作業と少しですが収穫も出来ました。また、小動物対策ネットの破れなどの被害も発生していました。

<岩手県宮古市 白浜地区>

7件の家屋が流され、1件の家屋が全壊状態で土砂が入ったままになっていました。避難所は既に閉鎖され、7件の方は他の地域に引っ越しされ、1件の方は家が決まらず、家族5人で奥さんの実家に避難されていました。子どもの学校の事を考え近隣の空家を捜されている状況でした。



被害が小さな地域では、避難所もすでに閉鎖され、支援物資もボランティアも来ない状況になっていました。行政の支援の手が行き届いていない地域への支援が必要になっています。

<東京都八王子市 浅川地区>



東日本大震災支援から連携してきたNPO団体が八王子市浅川の氾濫地区の支援に入っています。家屋床下の土砂撤去などを行っています。この団体と連携し避難所生活から見直し仮設での生活になる中で、家財の殆どを無くされた皆さんへ生活応援物資をお届けしています。被災した地域がたくさんある中で報道もされておらず、支援が行き届いていない地区の応援も行っています。

<宮城県丸森町>

1ヶ月経過してもまだ車両も埋まった状態で片付いていません。丸森町在住の介護施設のスタッフの皆さんがグリーンコープから届いた片付け資材(土のう袋・ガラ袋・トン袋)、衣料、即席食品等を配布されています。



山間部の土砂災害、平野部の水害の両方が発生しており、土砂撤去はまだまだまだたくさん残っています。山間部の道路はまだ通行止めになっています。復旧には相当な時間が掛かりそうな状況です。今後寒くなる中で、在宅被災者への必要なニーズを聞いて支援を継続していくことにしています。

<岩手県山田町 田の浜地区>



津波対策で防潮堤が設置されていましたが、山からの雨水と流出した土砂が堆積し、48世帯が床上浸水し、防潮堤を一部壊し、雨水、土砂を排出されていました。

今回の災害では津波対策の防潮堤が設置されたことで大雨時の雨水が抜けず、家屋が水没する原因になっていました。被災者の皆さんは、津波の被害でやっと仮設から出て再建したばかりで、今度は山からの雨水による災害となり、気落ちされていました。現在、撤去前の仮設住宅に入居されている方が28世帯、被災家屋の2階及び親戚の家などで生活している方が20世帯とのことでした。

共生地域創造財団(大槌、大船渡)スタッフで、炊出し及び物資配布対応を行いました。被災者の皆さんは、全ての家財が使えなくなった方も居られ、食器、布団、靴もまともに揃っていない様子でした。

<茨城県常陸太田市、福島県いわき市 小川地区・平下平窪地区>



西日本豪雨災害、九州北部大雨災害で連携してきたNPO団体が、10月20日から茨城県常陸太田市で炊出しを行い、11月から福島県いわき市の被災地区での炊出し、物資支援を行っています。

グリーンコープからは、炊出しや物資支援を連携し行っています。福島県いわき市の小川地区・平下平窪地区での炊出しは、今後も予定されており、炊出し食材及び支援物資等をサポートしていく事で連携し支援を行っていきます。